リリース・ノート
Open Client™/Open Server™ バージョン 12.5.1
Windows 版

ドキュメント ID：DC75913-01-1251-02
改訂：2006 年 3 月 3 日

トピック	ページ
1. 最新のリリース・ノート情報へのアクセス	2
2. 製品の概要	2
2.1 このリリース・ノートについて	3
3. 特別なインストールの指示	5
3.1 EBF のインストール	5
3.2 SDK と Open Server のインストールと設定を行う	5
4. このバージョンで変更された機能	7
5. 既知の問題	7
5.1 ESQL/C サンプル	7
5.2 Open Server 起動エラー	7
5.3 Sybase 製 ASE ODBC ドライバ	7
5.4 Sybase 製 ASE OLE DB プロバイダの問題	8
5.5 ASE ADO.NET の問題	9
5.6 InstallShield の問題	10
6. 製品の互換性と相互運用性	11
6.1 Open Client と Open Server の互換性	13
6.2 相互運用性の一覧	14
6.3 SDK と Open Server の互換性	16
6.4 DB-Library と Client-Library/Open Server の互換性	16
7. マニュアル情報と変更点	17
7.1 Common Libraries リファレンス・マニュアル	17
7.2 ASE ADO.NET Data Provider ユーザーズ・ガイド	17
8. プログラミングの問題	17
8.1 一般的な問題	17

Copyright 1987-2006 by Sybase, Inc. All rights reserved.Sybase、Sybase のロゴ、AccelaTrade、ADA Workbench、Adaptable Windowing Environment、Adaptive Component Architecture、Adaptive Server、Adaptive Server Anywhere、Adaptive Server Enterprise、Adaptive Server Enterprise Monitor、Adaptive Server Enterprise Replication、Adaptive Server Everywhere、Adaptive Server IQ、Adaptive Warehouse、Anywhere Studio、Application Manager、AppModeler、APT Workbench、APT-Build、APT-Edit、APT-Execute、APT-FORMS、APT-Translator、APT-Library、AvantGo、AvantGo Application Alerts、AvantGo Mobile Delivery、AvantGo Mobile Document Viewer、AvantGo Mobile Inspection、AvantGo Mobile Marketing Channel、AvantGo Mobile Pharma、AvantGo Mobile Sales、AvantGo Pylon、AvantGo Pylon Application Server、AvantGo Pylon Conduit、AvantGo Pylon PIM Server、AvantGo Pylon Pro、Backup Server、BizTracker、ClearConnect、Client-Library、Client Services、Convoy/DM、Copernicus、Data Pipeline、Data Workbench、DataArchitect、Database Analyzer、DataExpress、DataServer、DataWindow、DB-Library、dbQueue、Developers Workbench、Direct Connect Anywhere、DirectConnect、Distribution Director、e-ADK、E-Anywhere、e-Biz Integrator、E-Whatever、EC Gateway、ECMAP、ECRTP、eFulfillment Accelerator、Embedded SQL、EMS、Enterprise Application Studio、Enterprise Client/Server、Enterprise Connect、Enterprise Data Studio、Enterprise Manager、Enterprise SQL Server Manager、Enterprise Work Architecture、Enterprise Work Designer、Enterprise Work Modeler、eProcurement Accelerator、EWA、Financial Fusion、Financial Fusion Server、Gateway Manager、GlobalFIX、ImpactNow、Industry Warehouse Studio、InfoMaker、Information Anywhere、Information Everywhere、InformationConnect、InternetBuilder、iScript、Jaguar CTS、jConnect for JDBC、Mail Anywhere Studio、MainframeConnect、Maintenance Express、Manage Anywhere Studio、M-Business Channel、M-Business Network、M-Business Server、MDI Access Server、MDI Database Gateway、media.splash、MetaWorks、My AvantGo、My AvantGo Media Channel、My AvantGo Mobile Marketing、MySupport、Net-Gateway、Net-Library、New Era of Networks、ObjectConnect、ObjectCycle、OmniConnect、OmniSQL Access Module、OmniSQL Toolkit、Open Biz、Open Client、Open ClientConnect、Open Client/Server、Open Client/Server Interfaces、Open Gateway、Open Server、Open ServerConnect、Open Solutions、Optima++、Orchestration Studio、PB-Gen、PC APT Execute、PC Net Library、PocketBuilder、Pocket PowerBuilder、Power++、power.stop、PowerAMC、PowerBuilder、PowerBuilder Foundation Class Library、PowerDesigner、PowerDimensions、PowerDynamo、PowerJ、PowerScript、PowerSite、PowerSocket、Powersoft、PowerStage、PowerStudio、PowerTips、Powersoft Portfolio、Powersoft Professional、PowerWare Desktop、PowerWare Enterprise、ProcessAnalyst、Rapport、Report Workbench、Report-Execute、Replication Agent、Replication Driver、Replication Server、Replication Server Manager、Replication Toolkit、Resource Manager、RW-DisplayLib、S-Designor、SDF、Secure SQL Server、Secure SQL Toolset、Security Guardian、SKILS、smart.partners、smart.parts、smart.script、SQL Advantage、SQL Anywhere、SQL Anywhere Studio、SQL Code Checker、SQL Debug、SQL Edit、SQL Edit/TPU、SQL Everywhere、SQL Modeler、SQL Remote、SQL Server、SQL Server Manager、SQL SMART、SQL Toolset、SQL Server/CFT、SQL Server/DBM、SQL Server SNMP SubAgent、SQL Station、SQLJ、STEP、SupportNow、S.W.I.F.T. Message Format Libraries、Sybase Central、Sybase Client/Server Interfaces、Sybase Financial Server、Sybase Gateways、Sybase MPP、Sybase SQL Desktop、Sybase SQL Lifecycle、Sybase SQL Workgroup、Sybase User Workbench、SybaseWare、Syber Financial、SyberAssist、SyBooks、System 10、System 11、System XI (ロゴ)、SystemTools、Tabular Data Stream、TotalFix、TradeForce、Transact-SQL、Translation Toolkit、UltraLite.NET、UNIBOM、Unilib、Uninull、Unisep、Unistring、URK Runtime Kit for UniCode、Viewer、Visual Components、VisualSpeller、VisualWriter、VQL、WarehouseArchitect、Warehouse Control Center、Warehouse Studio、Warehouse WORKS、Watcom、Watcom SQL、Watcom SQL Server、Web Deployment Kit、Web.PB、Web.SQL、WebSights、WebViewer、WorkGroup SQL Server、XA-Library、XA-Server 、および XP Server は、米国法人 Sybase, Inc. の商標です。

トピック	ページ
8.2 Client-Library の問題	20
8.3 DB-Library の問題	20
8.4 Open Server の問題	21
8.5 Embedded SQL の問題	21
9. テクニカル・サポート	23
10. その他の情報	23
10.1 Web 上の Sybase 製品の動作確認情報	24
10.2 Sybase EBF とソフトウェア・メンテナンス	25

1. 最新のリリース・ノート情報へのアクセス

このリリース・ノートの最新バージョン (英語版) にはインターネットからアクセスできます。製品のリリース後に追加された製品およびマニュアルに関する重要な情報は、Sybase Product Manuals Web サイトで確認してください。

❖ **Sybase Product Manuals Web サイトのリリース・ノートにアクセスする**

1. Product Manuals (http://www.sybase.com/support/manuals/) を開きます。
2. 製品と言語を選択し、[Go] をクリックします。
3. [Document Set] リストから、製品のバージョンを選択します。
4. [Release Bulletins] リンクを選択します。
5. マニュアルのリストから、使用しているプラットフォームのリリース・ノートへのリンクを選択します。PDF バージョンをダウンロードするか、オンライン・マニュアルを参照することができます。

2. 製品の概要

このリリース・ノートでは、Open Server™ と SDK (Software Developer's Kit) のすべてのコンポーネント (Open Client™ を含む) に関連する問題について説明します。SDK のすべてのコンポーネントのリストについては、「このリリース・ノートについて」(3 ページ) を参照してください。

警告！ SDK と Open Server の両方を同じディレクトリにインストールする場合は、同じバージョン、同じ ESD レベルのものを使用することをおすすめします。SDK と Open Server はファイルを共有するため、使用するバージョンや ESD レベルが異なると製品が動作しないことがあります。

これらのプラットフォームおよびサポートされる機能の詳細については、表 2 (13 ページ) を参照してください。

注意 このリリース・ノートは、互換性のあるすべての Windows プラットフォームに対応しています。

同梱の Sybase SDK と Open Server バージョン 12.5.1 は、次のプラットフォームとオペレーティング・システムの設定と互換性があります。

- Microsoft Windows NT 4.0 Service Pack 6a 以降
- Microsoft Windows 2000 Service Pack 3 以降
- Microsoft Windows 2003 Service Pack 1 以降
- Microsoft Windows XP

2.1 このリリース・ノートについて

このリリース・ノートには、次の製品に関する最新情報が記載されています。

- SDK
  - Open Client/C バージョン 12.5.1
  - Embedded SQL™/C バージョン 12.5.1
  - Embedded SQL/COBOL バージョン 12.5.1
  - Sybase 製 Adaptive Server® Enterprise (ASE) ODBC ドライバ・バージョン 12.5.1
  - Sybase 製 ASE OLE DB Provider バージョン 12.5.1
  - ASE ADO.NET Data Provider バージョン 1.0
- Open Server バージョン 12.5.1

Windows NT 版の場合、Sybase では、次のコンパイラとリンカを Open Client/Open Server とともに使用できるかどうかをテストし、動作確認済みです。

- Microsoft 32-Bit C/C++ Optimizing Compiler バージョン 12.00.8804 以降

- Microsoft 32-Bit Executable Linker バージョン 6.00.8447 以降

注意 SDK の以前のバージョンに含まれていた ODBC ドライバ・キットは、現在は付属していません。代わりに、SDK 12.5.1 リビジョン 2 の場合は、ODBC ドライバ・キットが Sybase 製 ASE ODBC ドライバに置き換えられています。

Sybase 製 ASE ODBC ドライバと ODBC ドライバ・キットは、どちらも SDK 12.5.1 の以前のバージョンと一緒に出荷されていました。ODBC ドライバ・キットは *%SYBASE%¥ODBC* にインストールされ、ODBC ドライバ・マネージャに “Sybase ASE ODBC Driver” として登録されます。

Sybase 製 ASE ODBC ドライバは、*%SYBASE%¥DataAccess¥ODBC* にインストールされ、“Adaptive Server Enterprise” として登録されます。

Sybase 製 ASE ODBC ドライバへのマイグレーションについては、「Sybase 製 ASE ODBC ドライバへのマイグレート」(18 ページ) を参照してください。

注意 SDK の以前のバージョンに含まれていた OLE DB ドライバ・キットは、現在は付属していません。代わりに、SDK 12.5.1 リビジョン 2 の場合は、OLE DB ドライバ・キットが Sybase 製 ASE OLE DB プロバイダに置き換えられています。

Sybase 製 OLE DB プロバイダと OLE DB ドライバ・キットは、どちらも SDK 12.5.1 の以前のバージョンと一緒に出荷されていました。OLE DB ドライバ・キットは *%SYBASE%¥OLEDB* にインストールされ、プロバイダのショートネーム “Sybase.ASEOLEDBProvider” および ロングネーム “Sybase ASE OLE DB Provider” を使用していました。

Sybase 製 ASE OLE DB プロバイダは *%SYBASE%¥DataAccess¥OLEDB* にインストールされ、プロバイダのショートネーム “ASEOLEDB” および ロングネーム “Sybase OLEDB Provider” を使用します。

Sybase 製 ASE OLE DB プロバイダへのマイグレーションについては、「Sybase 製 ASE OLE DB プロバイダへのマイグレート」(19 ページ) を参照してください。

---

3. 特別なインストールの指示

SDK と Open Server ソフトウェアのインストール方法については、Software Developer's Kit の『リリース・ノート』、または使用しているプラットフォームに対応する SDK と Open Server の『インストール・ガイド』を参照してください。同一サーバに SDK と Open Server をインストールするためのガイドラインについては、「SDK または Open Server を他の Sybase 製品と一緒にインストールするためのガイドライン」(15 ページ) を参照してください。

環境の設定方法については、使用しているプラットフォームの『Open Client/Server 設定ガイド』を参照してください。

Open Client/Open Server アプリケーションとサンプル・プログラムのコンパイルと実行については、使用しているプラットフォームの『Open Client/Server プログラマーズ・ガイド補足』を参照してください。

3.1 EBF のインストール

インストール環境を最新の状態に保つために、SDK と Open Server バージョン 12.5.1 をインストールした後で対応する EBF の最新版をダウンロードすることを強くおすすめします。製品更新版は、http://downloads.sybase.com からダウンロードできます。

Open Server の各リリースには SDK のサブセットが含まれます。このため、Open Server EBF には、Client-Library™ の isql と bcp のように、Open Server EBF 用と SDK ファイル用の 2 つの個別のバージョン文字列が含まれます。

たとえば、Open Server 製品では、Server-Library バージョン文字列が *Server-Library/12.5.1/P-EBF9728-9715* で、Client-Library 文字列が *Client-Library/12.5.1/P-EBF9728-9715* になります。各バージョン文字列の "9728" は Open Server EBF、"9715" は Client-Library ファイルとその他の SDK ファイルを示します。

適切なバージョンの Open Server を使用しているかどうかを確認するには、次のコマンドを入力して *libsrv* のバージョン文字列を調べます。

```
find "Sybase" libsrv.dll
```

3.2 SDK と Open Server のインストールと設定を行う

Software Developer's Kit の『リリース・ノート』と、Software Developer's Kit と Open Server のバージョン 12.5.1 の『インストール・ガイド』の指示に従って、SDK と Open Server ソフトウェアをインストールします。ソフトウェアのインストールが正常に完了すると、製品を使用する準備が整い、環境を設定できます。

3.2.1 新しいバージョンの上書き

バージョン 12.5.1 の SDK または Open Server を他の Sybase 製品と一緒にインストールする場合、新しいバージョンの **.xml* ファイルの上書きについて警告されることがあります。このような場合は、ファイルを上書きしてインストールを進めます。

3.2.2 Windows NT での 10.0.*x*、11.1.1、12.0、12.5 の実行

バージョン 10.0.*x*、11.1.1、12.0、12.5 の SDK と Open Server 用に構築されたアプリケーションを使用する異機種環境では、コマンド・プロンプトで各バージョンのパスを明示的に設定する必要があります。

次の例では、10.0.*x* 製品を使用するアプリケーションは *d:¥sql10* ディレクトリ、11.1.1 製品を使用するアプリケーションは *d:¥sql¥1111* ディレクトリ、12.0 製品を使用するアプリケーションは *d:¥ocs-12* ディレクトリにそれぞれインストールされます。

❖ **SDK と Open Server の各バージョンのパスを設定するには**

1. コマンド・プロンプトを開き、10.0.*x* ディレクトリ用に SYBASE 環境変数と PATH 環境変数を設定します。次に例を示します。

```
set SYBASE=D:¥SQL10
set PATH=%PATH%;D:¥SQL10¥BIN;D:¥SQL10¥DLL
```

2. 別のコマンド・プロンプトを開き、11.1.1 ディレクトリ用に SYBASE 環境変数と PATH 環境変数を設定します。次に例を示します。

```
set SYBASE=D:¥SQL¥1111
set PATH=%PATH%;D:¥SQL¥1111¥BIN;D:¥SQL¥1111¥DLL
```

3. 別のコマンド・プロンプトを開き、12.0 ディレクトリ用に SYBASE 環境変数と PATH 環境変数を設定します。次に例を示します。

```
set SYBASE_OCS=OCS-12_0
set PATH=%PATH%;%SYBASE%¥%SYBASE_OCS%¥BIN;
%SYBASE%¥%SYBASE_OCS%¥DLL
```

違うバージョンは別々のディレクトリにインストールする必要がありますが、アドレス・ファイル名を各アプリケーションに明示的に渡すことで、管理する *sql.ini* ファイルは 1 つだけですみます。次に例を示します。

```
isql -P -Usa -Sconnect50 -Id:¥sql1003¥ini¥sql.ini
```

注意 使用するプロトコルに対する Net-Library™ ドライバのみをインストールしてください。それ以外の場合は、エラー・メッセージが表示されます。

---

4. このバージョンで変更された機能

変更された機能については、『新機能 Open Server 12.5.1 と SDK 12.5.1 Microsoft Windows、Linux、UNIX』で説明しています。

5. 既知の問題

この項では、このリリースですでにわかっている問題をすべて説明します。

5.1 ESQL/C サンプル

ESQL/C サンプルは現在、Windows プラットフォームでは構築できません。

5.2 Open Server 起動エラー

サーバに複数のネットワーク・インタフェース・カード (NIC: Network Interface Card) がある場合は、起動時に Open Server が次のエラーを返すことがあります。

```
WARNING: SRV_CURPROC is null, msgno = 16240
```

対処方法：Open Server ごとに 1 つずつマスタ／クエリ・エントリを作成します。バージョン 12.5.1 では、サーバのすべてのネットワーク・インタフェースにワイルドカード・バインドを行うため、interfaces ファイルに NIC ごとのエントリを指定する必要はありません。

5.3 Sybase 製 ASE ODBC ドライバ

この項では、Sybase 製 ASE ODBC ドライバのバージョン 12.5.1 の既知の問題と対処方法について説明します。

5.3.1 未サポートの ODBC 機能

このバージョンの Sybase Adaptive Server Enterprise ODBC ドライバでは、以下の機能はサポートされていません。

- SQLCancel
- 非同期実行
- ネットワーク・トラフィックの Kerberos 暗号化

5.3.2 Adaptive Server 12.*x* と使用する場合の制限

ASE ODBC ドライバを Adaptive Server バージョン 12.*x* とともに使用する場合の制限は次のとおりです。

- UseCursor プロパティが 1 に設定されていると、呼び出されたサーバ側カーソルは使用できない。

  対処方法：UseCursor を 0 に設定して、サーバ側カーソルの使用を回避します。

- DynamicPrepare 接続プロパティが 1 に設定されていると、呼び出された準備文は使用できない。

  対処方法：DynamicPrepare を 0 に設定して、準備文の使用を回避します。

- *output* と *input/output* パラメータが、ストアド・プロシージャ・コールで使用できない。

  対処方法：最新版の Adaptive Server へアップグレードします。

- SQLProcedureColumns メソッドが完全なカラム型の情報を返さない。

  対処方法：最新版の Adaptive Server へアップグレードします。

- SQLColAttribute 関数では、サポートされる記述子型が制限される。

  対処方法：最新版の Adaptive Server へアップグレードします。

5.4 Sybase 製 ASE OLE DB プロバイダの問題

この項では、Sybase 製 ASE OLE DB Provider バージョン 12.5.1 の既知の問題と対処方法について説明します。

5.4.1 未サポートの OLE DB 機能

このバージョンの Sybase 製 Adaptive Server Enterprise OLE DB プロバイダでは、以下の機能はサポートされていません。

- OLE DB エラー・オブジェクト (ISupportErrorInfo) の返送
- 返されるローの最大数を制限する RowSet の DBPROP_MAXROWS プロパティ
- 欠落している接続情報を要求する DBPROP_INIT_PROMPT プロパティ
- 格納オブジェクトに対してデータ・ソースとコマンドの読み込みまたは書き込みを行う IPersist オブジェクト
- 複数のローをバッチで変更する IRowsetChange
- ネットワーク・トラフィックの Kerberos 暗号化
- 非同期実行

5.4.2 Adaptive Server 12.*x* と使用する場合の制限

ASE OLE DB プロバイダを Adaptive Server バージョン 12.*x* と使用する場合の制限は次のとおりです。

- UseCursor プロパティが 1 に設定されていると、呼び出されたサーバ側カーソルは使用できない。

  対処方法：UseCursor を 0 に設定して、サーバ側カーソルの使用を回避します。

- DynamicPrepare 接続プロパティが 1 に設定されていると、呼び出された準備文は使用できない。

  対処方法：DynamicPrepare を 0 に設定して、準備文の使用を回避します。

- *output* と *input/output* パラメータは、ストアド・プロシージャ・コールでは使用できない。

  対処方法：最新版の Adaptive Server へアップグレードします。

- `IDBSchemaRowset::GetRowset` で取得したスキーマ・ローセットのスキーマ情報が限定されている。

  対処方法：最新版の Adaptive Server へアップグレードします。

5.5 ASE ADO.NET の問題

この項では、Adaptive Server と ASE ADO.NET Data Provider バージョン 1.1 の既知の問題と対処方法について説明します。

5.5.1 Adaptive Server 12.*x* と使用する場合の制限

ASE ADO.NET Provider を Adaptive Server バージョン 12.*x* と使用する場合の制限は次のとおりです。

- UseCursor プロパティが *true* に設定されていると、呼び出されたサーバ側カーソルは使用できない。

  対処方法：UseCursor を *false* に設定して、サーバ側カーソルの使用を回避します。

- AseCommand クラスの prepare メソッドが呼び出されると、呼び出された準備文は使用できない。

  対処方法：AseCommand クラスで prepare メソッドを呼び出さないようにして、準備文の使用を回避します。

- *output* と *input/output* パラメータは、ストアド・プロシージャ・コールでは使用できない。

  対処方法：最新版の Adaptive Server へアップグレードします。

- GetSchemaTable から不完全な結果セットのカラム・データが返される。

  対処方法：最新版の Adaptive Server へアップグレードします。

- AseCommandBuilder クラスを使用できない。

  対処方法：最新版の Adaptive Server へアップグレードします。

5.5.2 10 進変数の最大精度の制限

現在、ASE ADO.NET Data Provider では、decimal 型に対して最大精度 26 桁がサポートされています。基本となる .NET の構造体とそれに対応する Adaptive Server のデータ型では、さらに高い精度を扱うことができますが、26 を上回る精度を使用しようとすると例外が発生します。この制限が影響する Adaptive Server のデータ型は、decimal と numeric です。

5.6 InstallShield の問題

この項では、SDK と Open Server 製品のインストール時に発生する可能性のある既知の問題について説明します。

5.6.1 InstallShield が既存の Sybase ファイルを上書きする

同じファイル名を持つ既存のファイルは、InstallShield によって上書きされます。

データが失われないように保護するには、*%SYBASE%¥SYBASE.BAT* ファイルのコピーを保存してから、SDK と Open Server をインストールします。

警告！ 12.5.1 より以前のリリースの ASE がインストールされているマシンに SDK 12.5.1 または Open Server 12.5.1 をインストールすると、前のバージョンのサーバが起動しなくなります。

---

6. 製品の互換性と相互運用性

表 1 は、バージョン 12.5.1 の Open Client と Open Server を構築するために Sybase が使用するコンパイラを示します。

注意 プログラムを構築するために使用できるコンパイラはこれだけではありません。

表 1: Open Client と Open Server のプラットフォームの互換性

プラットフォーム	オペレーティング・システム・レベル	C および C++ コンパイラ	COBOL コンパイラ	Kerberos バージョン	LDAP (Light-weight Directory Access)	SSL (Secure Socket Layer)
HP-UX 11.0 32 ビット版	HP-UX 11.0 パッチ・バンドル 990P	HP C/ANSI 11.00.00 HP ANSI C++ B3910B A.03.10	Micro Focus Server Express 2.0.10	CyberSafe Trust Broker 2.1、MIT 1.3.6	Netscape LDAP 4.1	Certicom SSL Plus 3.1.15
HP-UX 11.0 64 ビット版	HP-UX 11.0 パッチ・バンドル 990P	HP C 11.00.00 ANSI HP ANSI C++ B3910B A.03.10	使用不可	使用不可	Netscape LDAP 4.1	Certicom SSL Plus 3.1.15
HP-UX 11.11 (または HP-UX 11i v1.0) 32 ビット版	HP-UX 11i v1	HP C/ANSI C B.11.11.10 HP ANSI C++ B3910B A.03.10	Micro Focus Server Express 4.0	CyberSafe Trust Broker 2.1、MIT 1.3.6	Netscape LDAP 4.1	Certicom SSL Plus 3.1.15
HP-UX 11.11 (または HP-UX 11i v1.0) 64 ビット版	HP-UX 11i v1 パッチ・バンドル 990P	HP C 11.11.10 ANSI HP ANSI C++ B3910B A.03.10	使用不可	MIT 1.4.3	Netscape LDAP 4.1	Certicom SSL Plus 3.1.15
HP Itanium 32 ビット版	HP-UX 11.23	HP C++/ANSI C B3910B A.0550	Micro Focus Server Express 4.0 SP2	使用不可	Netscape LDAP 4.1	Certicom SSL Plus 5.0.6f
HP Itanium 64 ビット版	HP-UX 11.23	HP C++/ANSI C B3910B A.0550	使用不可	使用不可	Netscape LDAP 4.1	Certicom SSL Plus 5.9.6h
HP Tru64	Digital UNIX TRU64 5.0a	C++ 6.0-010	DEC COBOL 2.7	CyberSafe Trust Broker 2.1	Netscape LDAP 4.1	Certicom SSL Plus 3.1.15
IBM AIX 32 ビット版	AIX 5.2	C++ 5.0.22	Micro Focus Server Express 2.0.10	CyberSafe Trust Broker 2.1	使用不可	Certicom SSL
IBM AIX 64 ビット版	AIX 5.2	C++ 5.0.22	使用不可	MIT 1.4.3	使用不可	Certicom SSL
Linux on POWER 32 ビット版	Red Hat Enterprise Linux AS 3.0	IBM XL C/C++ Advance Edition V7.0	使用不可	使用不可	使用不可	使用不可

プラットフォーム	オペレーティング・システム・レベル	C および C++ コンパイラ	COBOL コンパイラ	Kerberos バージョン	LDAP (Light-weight Directory Access)	SSL (Secure Socket Layer)
Linux on POWER 64 ビット版	Red Hat Enterprise Linux AS 3.0	IBM XL C/C++ Advance Edition V7.0	使用不可	使用不可	使用不可	使用不可
Linux AMD64 (Opteron)/ EM64T	Red Hat Enterprise AS 3.0	GCC 3.2.3 (Red Hat Linux 3.2.3 - 42)	使用不可	MIT 1.2.7	使用不可	Certicom SSL Plus 5.0.4m
Linux Intel 32 ビット版	Red Hat AS 2.1 または United Linux/ SuSe SLES 8.0/ UL1.0	オペレーティング・システムでサポートされる C コンパイラ	使用不可	MIT 1.3.1	Netscape LDAP 4.1	Certicom SSL
Linux Itanium 64 ビット版	Red Hat Advance Server 2.1	GCC C 2.96	使用不可	使用不可	使用不可	使用不可
Linux PowerPC	Red Hat AS 3.0 または United Linux/ SuSe SLES 9.0 (SLES 9)	XL C/C ++ Advance Edition V7.0	使用不可	使用不可	使用不可	使用不可
SGI 32 ビット版	IRIX 6.5.18	MIPSPro C7.3.*x* MIPSPro C++ 7.3.*x*	使用不可	使用不可	Netscape LDAP 4.0	使用不可
SGI 64 ビット版	IRIX 6.5.18	MIPSPro C7.3.*x* MIPSPro C++ 7.3.*x*	使用不可	使用不可	使用不可	使用不可
Sun Solaris 8 (SPARC 32 ビット版)	Solaris 8	Sun C/C++ 6.2	Micro Focus Server Express 2.0.10	CyberSafe Trust Broker 2.1、MIT 1.3.1	Netscape LDAP 4.0	Certicom SSL Plus 3.1.14
Sun Solaris 8 (SPARC 64 ビット版)	Solaris 8	Sun C/C++ 6.2	使用不可	MIT 1.3.1	Netscape LDAP 4.1	Certicom SSL Plus 3.1.14
Sun Solaris 9 x86 (32 ビット版)	Solaris 9	Sun C/C++ 6.2	使用不可	MIT 1.4.1	使用不可	使用不可
Sun Solaris 10 x64 (Opteron 64 ビット版)	Solaris 10	Studio 10 (Sun C/C++ 5.7)	使用不可	MIT 1.4.1	オープン LDAP 2.2.26	Certicom SSL Plus 5.0.4
Windows NT 32 ビット版	NT 4.0 Service Pack 4	MS C 6.0 (Microsoft Developers Studio、未最適化、開発用)	Micro Focus Net Express 3.1	CyberSafe Trust Broker 2.1、MIT 1.3.6	Netscape LDAP 4.1	Certicom SSL Plus 3.1.15
Windows 2000	Service Pack 3	MS C 6.0 (Microsoft Developers Studio、未最適化、開発用)	Micro Focus Net Express 3.1	CyberSafe Trust Broker 2.1、MIT 1.3.6	Netscape LDAP 4.1	Certicom SSL Plus 3.1.15

プラットフォーム	オペレーティング・システム・レベル	C および C++ コンパイラ	COBOL コンパイラ	Kerberos バージョン	LDAP (Light-weight Directory Access)	SSL (Secure Socket Layer)
Windows 2003	Service Pack 1	MS C 6.0 (Microsoft Developers Studio、未最適化、開発用)	Micro Focus Net Express 3.1	CyberSafe Trust Broker 2.1、MIT 1.3.6	Netscape LDAP 4.1	Certicom SSL Plus 3.1.15
Windows XP		MS C 6.0 (Microsoft Developers Studio、未最適化、開発用)	Micro Focus Net Express 3.1	CyberSafe Trust Broker 2.1、MIT 1.3.6	Netscape LDAP 4.1	Certicom SSL Plus 3.1.15

6.1 Open Client と Open Server の互換性

Windows NT、Windows 2000、Windows 2003、および Windows XP での Open Server バージョン 12.5.1 は、表 2 に示されている Client-Library/C と Adaptive Server Enterprise (ASE) の各製品との動作が保証されています。

表 2: Open Client と Open Server の互換性

Open Server 12.5.1 のプラットフォーム	Client-Library 12.5.1	Client-Library 12.5	Client-Library 12.0	ASE 12.5.3	ASE 12.5.2	ASE 12.5.1	ASE 12.5	ASE 12.0
HP Tru64	x	x	x	x	x	x	x	x
HP-UX 11.0 32 ビット版および 64 ビット版	x	x	x	x	x	x	x	x
HP-UX 11.11 (または HP-UX 11i v1.0) (32 ビット版および 64 ビット版)	x	該当なし	該当なし	x	x	x	該当なし	該当なし
HP Itanium 32 ビット版および 64 ビット版	x	該当なし	該当なし	x	x	x	該当なし	該当なし
IBM AIX 32 ビット版および 64 ビット版	x	x	x	x	x	x	x	該当なし
Linux on POWER 32 ビット版および 64 ビット版	x	該当なし	該当なし	x	x	x	x	該当なし
Linux AMD64 (Opteron)/EM64T	x	該当なし	該当なし	x	x	該当なし	該当なし	該当なし
Linux Intel 32 ビット版	x	x	x	x	x	x	x	該当なし
Linux Itanium 64 ビット版	x	該当なし	該当なし	x	x	x	該当なし	該当なし
Linux PowerPC	x	該当なし	該当なし	x	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし
SGI 32 ビット版	x	x	x	x	x	x	x	x

記号の説明：x = 互換性あり、該当なし = このプラットフォーム版の製品がない

Open Server 12.5.1 のプラットフォーム	Client-Library 12.5.1	Client-Library 12.5	Client-Library 12.0	ASE 12.5.3	ASE 12.5.2	ASE 12.5.1	ASE 12.5	ASE 12.0
SGI 64 ビット版	x	該当なし	該当なし	x	x	x	該当なし	該当なし
Sun Solaris 8 (SPARC 32 ビット版)	x	x	x	x	x	x	x	x
Sun Solaris 8 (SPARC 64 ビット版)	x	x	該当なし	x	x	x	x	該当なし
Sun Solaris 9 x86 (32 ビット版)	x	該当なし	該当なし	x	x	x	該当なし	該当なし
Sun Solaris 10 x64 (Opteron 64 ビット版)	x	該当なし	該当なし	x	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし
Windows NT 32 ビット版	x	x	x	x	x	x	x	x
Windows 2000、2003、XP	x	x	該当なし	x	x	x	x	該当なし

記号の説明：x = 互換性あり、該当なし = このプラットフォーム版の製品がない

警告！ ここに示すバージョンの中には、互換性があるけれども Sybase でサポートされなくなったものも含まれています。

また、Open Server については次の点に注意してください。

- アプリケーションに含まれるヘッダ・ファイルは、アプリケーションがリンクしているライブラリと同じバージョン・レベルでなければならない。
- Bulk-Library のルーチンは、Open Server バージョン 2.*x* のルーチンを呼び出すアプリケーションでは使用できない。
- DB-Library ベースの Open Server アプリケーションは、バージョン 11.*x* 以降ではサポートされない。

6.2 相互運用性の一覧

表 3 は、Adaptive Server Enterprise、Replication Server®、SDK、および Open Server の各バージョンの相互運用性の一覧を示します。特定のプラットフォームまたは O/S レベルの情報については、各製品の Certification Report を参照してください。

複数の製品が相互運用可能な場合でも、ある製品のバージョンが新しくなり新機能が導入されると、その新機能は、同じ製品の古いバージョンや他の製品でサポートされない可能性があります。

これらの製品の最新の相互運用性レポートについては、MySybase (http://www.sybase.com/) の Technical Document (#1026087) を参照してください。

表 3: 相互運用性の一覧

	Adaptive Server Enterprise				SDK および Open Server		Replication Server		
	12.5.3	12.5.2	12.5.1	12.0	12.5.1	12.0	12.6	12.5	12.1
Apple Mac OS X	x	x	x	該当なし	x	該当なし	x	該当なし	該当なし
HP Tru64	x	x	x	x	x	x	x	x	x
HP-UX 11.*x*	x	x	x	x	x	x	x	x	x
IBM AIX 32 ビット版と 64 ビット版	x	x	x	x	x	x	x	x	x
Linux on POWER (32 ビット版と 64 ビット版)	x	x	x	該当なし	x	該当なし	x	該当なし	該当なし
Linux Advanced Server 2.1	x	x	x	該当なし	x	該当なし	x	該当なし	該当なし
Linux Advanced Server 3.0	x	x	x	該当なし	x	該当なし	x	該当なし	該当なし
Silicon Graphics IRIX	x	x	x	該当なし	x	x	x	x	該当なし
Sun Solaris 8 (SPARC 32 ビット版)	x	x	x	x	x	x	x	x	x
Sun Solaris 8 (SPARC 64 ビット版)	x	x	x	x	x	x	x	x	x
Sun Solaris 9 x86 (32 ビット版)	x	x	x	該当なし	x	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし
Sun Solaris 10 x64 (Opteron 64 ビット版)	x	該当なし	該当なし	該当なし	x	該当なし	x	該当なし	該当なし
Microsoft Windows (NT、2000、2003、XP)	x	x	x	x	x	x	x	x	x

記号の説明：x = 互換性あり、該当なし = このプラットフォーム版の製品がない

6.2.1 SDK または Open Server を他の Sybase 製品と一緒にインストールするためのガイドライン

バージョン 12.5.1 の SDK または Open Server を他の Sybase 製品と同じサーバにインストールするためのガイドラインを次に示します。

- Windows プラットフォームでは、Adaptive Server 12.5.0.3 がインストールされているサーバに SDK 12.5.1 または Open Server 12.5.1 をインストールすると、Adaptive Server が起動しなくなります。この組み合わせの設定を行うには、Adaptive Server を 12.5.1 にアップグレードするか、SDK と Open Server のバージョン 12.5.1 の『インストール・ガイド』の指示に従ってください。

- 一般に、SDK と Open Server を新しくインストールする場合は、他の Sybase 製品 (Replication Server、OpenSwitch、Enterprise Connect™ Data Access、Sybase IQ など) とは別のディレクトリに配置することをおすすめします。ただし、何らかの問題に対処するために、Sybase 製品の保守契約を結んでいるサポート・センタから同じディレクトリへのインストールを特に指示された場合を除きます。

  Windows プラットフォームでは、*.bat* ファイルを使用して、適切な環境変数と適切なバージョンの SDK と Open Server を使用して各製品が起動するようにします。

- 異なるバージョンの SDK と Open Server を同じディレクトリに混在させることはおすすめしません (たとえば、Open Server 12.5 を含むディレクトリに SDK 12.5.1 をインストールしないでください。この場合は、SDK と Open Server を両方とも 12.5.1 にアップグレードしてください)。

6.3 SDK と Open Server の互換性

SDK と Open Server の互換性を確保するには、アプリケーションに含まれるヘッダ・ファイルのバージョン・レベルが、アプリケーションがリンクしているライブラリと同じであることが必要です。

6.4 DB-Library と Client-Library/Open Server の互換性

DB-Library の互換性には次の問題があります。

- Open Client または Adaptive Server の新機能のサポートは、主に Client-Library API を対象としています。これには、LDAP、SSL、XNL、HA フェールオーバ、DOS テーブルへのバルク・コピーなどのサポートが含まれます。このため、新しいアプリケーションはすべて Client-Library API を使用して作成することを強くおすすめします。新しいテクノロジを提供する Adaptive Server サーバに対して実行する可能性がある場合は、DB-Library で作成した古いアプリケーションを Client-Library にマイグレートすることをおすすめします。
- 新機能のサポートは、この DB-Library には追加されません。
- DB-Library リエントラントでもスレッドセーフでもなく、スレッド・アプリケーションでサポートされません。
- DB-Library と Client-Library の呼び出しを同じアプリケーションに含めることは可能ですが、Sybase ではこの 2 つの異なる API の組み合わせについてはテストと確認を行っていません。2 つの API を一緒に使用する必要がある場合は、ライブラリのメジャー・リリース・レベルだけでなく ESD レベルも揃えてください。

DB-Library アプリケーションの Client-Library アプリケーションへの変換の詳細については、『Open Client Client-Library 移行ガイド』を参照してください。

7. マニュアル情報と変更点

この項では、Open Client と Open Server のマニュアル情報と変更点について説明します。

7.1 Common Libraries リファレンス・マニュアル

CS-Library メッセージ・コールバックを定義するには、『Open Client/Open Server Common Libraries リファレンス・マニュアル』の第 1 章にある 6 ページの宣言を次の宣言で置き換えてください。

```
CS_RETCODE CS_PUBLIC cslibmsg_cb(context, message)
CS_CONTEXT *context;
CS_CLIENTMSG *message;
```

7.2 ASE ADO.NET Data Provider ユーザーズ・ガイド

この項では、『ASE ADO.NET Data Provider ユーザーズ・ガイド』のマニュアル情報と変更点について説明します。

7.2.1 AseDataReader クラスでの GetDouble メソッドの使用

「第 4 章 ASE ADO.NET Data Provider API リファレンス」では、float の精度の値について次のように変更されています。

精度が 16 以上の Adaptive Server 型 double と float には GetDouble メソッドを使用し、精度が 16 未満の Adaptive Server 型 real と float には GetFloat メソッドを使用してください。

8. プログラミングの問題

この項では、Open Client、Open Server、Embedded SQL に関するプログラミングの問題について説明します。

8.1 一般的な問題

この項では、すべての Open Client および Open Server 製品に関するプログラミングの問題について説明します。

8.1.1 新しいリリースへのアップグレード

静的または動的にリンクしている Open Client と Open Server のアプリケーション (dblib、ctlib、esql、srvlib) について、Sybase では次の方法をおすすめします。

- 静的にリンクしているアプリケーションでは、新しいバージョンのソフトウェアを使用してアプリケーションを完全に再構築する必要があります。新しいヘッダ・ファイルとライブラリを使用してアプリケーションの再コンパイルと再リンクを実行してください。
- 動的にリンクしているアプリケーションでは、再コンパイルと再リンクをおすすめします。少なくとも、新しいライブラリとの再リンクは必要です。

注意 アプリケーション・ファイルを変更した場合、または Sybase ヘッダ・ファイルが変更されている場合は、再コンパイルが必ず必要です。

アプリケーションの構築に使用するバージョンと同じメジャー・リリースのランタイム・ライブラリを使用してください。

8.1.2 システム・パスの制限

1K を超えるシステム・パスは作成しないでください。

8.1.3 Sybase 製 ASE ODBC ドライバへのマイグレート

アプリケーションを Sybase 製 ODBC ドライバ・キットから ASE ODBC ドライバにマイグレートするには、必ず次の手順を完了してください。

❖ **Sybase 製 ODBC ドライバ・キットから ASE ODBC ドライバにマイグレートするには**

1. *DSN* をマイグレートします。

   Sybase 製 ASE ODBC ドライバを利用するために使用する DSN を作成し直す必要があります。あるいは、違う名前で新しい DSN を作成し、アプリケーション・コードの DSN 名を変更してもかまいません。この作業を行うために、DSN マイグレーション・ツールが提供されています。

2. *ODBC* アプリケーション・コードをマイグレートします。

   別の名前で新しい DSN を作成した場合は、SQLConnect の呼び出しで使用している DSN 名を変更する必要があります。`Driver=Driver Name` をドライバ名として使用する場合は、SQLDriverConnect 接続文字列も変更する必要があります。Sybase 製 ASE ODBC ドライバの名前は “Adaptive Server Enterprise” です。

ODBC DSN マイグレーション・ツールを使用して、ODBC ドライバ・キットから Sybase 製 ODBC ドライバにマイグレートできます。ツールの詳細については、『新機能 Open Server 12.5.1 と SDK 12.5.1 Microsoft Windows、Linux、UNIX』の「ODBC DSN マイグレーション・ツール」の項を参照してください。

ODBC ドライバ・キットと Sybase 製 ASE ODBC ドライバの動作で確認されている違いについては、「未サポートの ODBC 機能」(7 ページ) を参照してください。

注意 Sybase 製 ASE ODBC ドライバの接続文字列の構文については、使用しているプラットフォームに応じた、Sybase 製 Adaptive Server Enterprise ODBC ドライバの『ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

この接続文字列の構文は、ODBC ドライバ・キットの構文とは異なります。Sybase 製 ODBC ドライバは ODBC ドライバ・キットの構文にも対応していますが、可能な場合は接続文字列の構文を新しい構文にマイグレートすることをおすすめします。

8.1.4 Sybase 製 ASE OLE DB プロバイダへのマイグレート

アプリケーションを OLE DB ドライバ・キットから Sybase 製 ASE OLE DB プロバイダにマイグレートするには、OLE DB クライアント・アプリケーションが使用する接続文字列を変更する必要があります。Sybase 製 ASE OLE DB プロバイダのショートネームは、“ASEOLEDB” および ロングネームは “Sybase OLEDB Provider” です。

ASE OLE DB Configuration Manager を使用して OLE DB データ・ソース定義をレジストリに格納する場合は、Sybase 製 ASE OLE DB プロバイダで使用されるこれらの定義を、OLE DB DSN マイグレーション・ツールを使用してマイグレートします。詳細については、『新機能 Open Server 12.5.1 と SDK 12.5.1 Microsoft Windows、Linux、UNIX』の「Sybase ASE データ・ソース・アドミニストレータの使用」と「DSN マイグレーション・ツールの使用」を参照してください。

OLE DB ドライバ・キットと Sybase 製 ASE OLE DB プロバイダの動作で確認されている違いについては、「未サポートの OLE DB 機能」(8 ページ) を参照してください。

注意 Sybase 製 ASE OLE DB プロバイダの接続文字列の構文については、Adaptive Server Enterprise OLE DB プロバイダの Microsoft Windows 用の『ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

この接続文字列の構文は、OLE DB ドライバ・キットの構文とは異なります。Sybase 製 OLE DB プロバイダは OLE DB ドライバ・キットの構文にも対応していますが、可能な場合は接続文字列の構文を新しい構文にマイグレートすることをおすすめします。

8.2 Client-Library の問題

この項では、Open Client Client-Library バージョン 12.5.1 固有のプログラミングの問題について説明します。

8.2.1 非同期プログラミング

Client-Library を正常に終了するには、すべての非同期オペレーションが完了した後に ct_exit を呼び出します。非同期オペレーション実行中に ct_exit が呼び出されると、ルーチンは CS_FAIL を返し、CS_FORCE_EXIT を使用しても Client-Library は正常に終了しません。

Client-Library は Windows NT と Windows 2000 での非同期オペレーションを完全にサポートします。詳細については、『Open Client Client-Library/C リファレンス・マニュアル』の「非同期プログラミング」を参照してください。

8.2.2 レジスタード・プロシージャ・ノーティフィケーション

CS_ASYNC_NOTIFS CS_ASYNC_NOTIFS 接続プロパティは、Client-Library アプリケーションが Open Server アプリケーションからレジスタード・プロシージャ・ノーティフィケーションを受け取る方法を制御します。

現在、Open Server アプリケーションは、ノーティフィケーション (通知) を 1 つまたは複数の Tabular Data Stream™ (TDS) パケットとしてクライアントに送信します。ただし、Client-Library が接続からノーティフィケーション・パケットを読み、アプリケーションのノーティフィケーション・コールバックを起動すると、クライアント・アプリケーションにノーティフィケーションが通知されます。

CS_ASYNC_NOTIFS を CS_TRUE に設定し、ct_poll が接続上のアイドル状態のアプリケーションのノーティフィケーション・コールバックをトリガするようにしてください。これは、アプリケーションがコマンドを積極的に送信して接続上の結果を読み込まないかぎり、アプリケーションは CS_ASYNC_NOTIFS が CS_FALSE (デフォルト) のときにノーティフィケーションを受け取れないということです。

8.3 DB-Library の問題

この項では、DB-Library バージョン 12.5 固有のプログラミングの問題について説明します。

8.3.1 サンプル・プログラム

DB-Library サンプル・プログラムを構築するには、使用しているプラットフォームの *makefile* ファイル内にある CFLAGS と DBLIBS の定義をコメント解除してください。

注意 DB-Library サンプル・プログラムの *README* ファイルには、UNIX の情報のみが含まれています。NT と Windows 固有の手順については、CT-Library サンプルの *README* ファイルを参照してください。

8.4 Open Server の問題

この項では、Open Server バージョン 12.5.1 固有のプログラミングの問題について説明します。

8.4.1 Windows NT での Open Server 命名規則

一部の Open Server サンプル・ファイルは、サーバの名前でログ・ファイルを作成しようとします。この名前が 8 文字を超える場合、ログ・ファイルの open は失敗します。

8.4.2 サポートされない Open Server ルーチン

Windows プラットフォームでは、特定の Open Server ルーチンがサポートされていません。srv_capability を使用してルーチンがサポートされているかどうかを調べることはできますが、Open Server DLL は、リンクと時間の依存関係を解決するためのスタブ・ポイントを提供していません。移植可能なアプリケーションで次のいずれかの Open Server ルーチンが使用される場合、アプリケーションで srv_capability を呼び出して、そのルーチンが使用可能かどうかを調べ、Windows NT または Windows 98 固有のリンク用スタブ・モジュールを提供するようにしてください。

- srv_poll
- srv_select
- srv_signal
- srv_sigvec
- srv_dbg_stack

8.5 Embedded SQL の問題

この項では、Embedded SQL/C と Embedded SQL/COBOL バージョン 12.5 以降に固有のプログラミングの問題について説明します。

8.5.1 Embedded SQL/C オブジェクトを複数のスレッド間で共有する

デフォルトでは、Embedded SQL/C 接続、カーソル、動的文は、複数のスレッドで共有できません。このタイプの各オブジェクトに対するネーム・スペースは、現在実行中のスレッドに限られます。別のスレッドが作成したオブジェクトを他のスレッドが参照することはできません。オブジェクトを共有するには、*sybesql.c* モジュールをコンパイルするときに -D コンパイラ・オプションを使用して、マクロ CONNECTIONS_ARE_SHARED_ACROSS_THREADS を 1 に設定します。

警告！ Embedded SQL/C オブジェクトが複数のスレッドで共有されている場合、アプリケーションのプログラミングでスレッドの処理を直列化し、単一の接続に関連付けられたオブジェクトが複数のスレッドによって同時に使用されないようにする必要があります。

動的記述子は、通常、複数のスレッドで共有できます。各スレッドに動的記述子用のネーム・スペースを割り当てるには、-D コンパイラ・オプションを使用して、マクロ DESCRIPTOR_SCOPE_IS_THREAD を 1 に設定します。-D コンパイラは、*sybesql.c* モジュールをコンパイルするときに使用します。

8.5.2 プリコンパイラ *-b* オプション

-b オプションは、Embedded SQL/COBOL プリコンパイラのバージョン 10.0.*x* と 11.*x* で次のような相違点があります。

- cpre と cobpre のバージョンが 11.1 以降の場合は、宣言が -b オプションでプリコンパイル済みのカーソルのすべての fetch 文に norebind 属性が適用されます。
- cpre と cobpre のバージョンが 10.0.*x* の場合は、カーソルがどこで宣言されたかに関係なく、-b でプリコンパイルされた各 Embedded SQL ソース・ファイル内のすべての fetch 文に norebind 属性が適用されます。
- cobpre の実行中に “M_NO_INPUT_FILE Error” のようなエラー・メッセージが表示された場合は、現在の入力ファイル名が使用されていること、およびすべての入力パラメータ (/D など) が正しく入力されていることを確認してください。

8.5.3 プリコンパイラ *-p* オプション

文字列のホスト変数が空であるときに NULL 文字列ではなく空の文字列を挿入しなければならないアプリケーションは、-p オプションが「オン」に設定されている場合には動作しません。永続的なバインドを実装しているので、Embedded SQL/C と Embedded SQL/COBOL は Client-Library プロトコル (NULL 文字列を挿入する) を回避することができません。

8.5.4 エラーまたは警告によって、*select into* 文からすべてのローを取得できない

出力ホスト変数として配列を使って、1 つの select into 文で複数のローを取得できます。エラーや警告が発生しない場合、選択されたすべてのローは配列の長さの上限に達した時点で返されます。トランケーションまたは変換の警告やエラーが発生した場合は、エラーや警告の発生したローまでしか返されません。すべてのローを受け取るようにするには、カーソルを使用して残りのローがなくなるまでフェッチを続けます。

8.5.5 Embedded SQL/C サンプル・プログラム

不正なパスワードを入力すると、サンプル・プログラム *example1.pco* と *example2.pco* は不正なエラー番号を生成します。これらの番号は無視してもかまいません。

8.5.6 Embedded SQL/COBOL サンプル・プログラム

サンプル・プログラムをコンパイルするための共有ライブラリ・パスには、*%COBDIR%¥lib* と *%SYBASE%¥%SYBASE_OCS%/lib* を含めてください。パスには、*%COBDIR%¥bin* と *%SYBASE%¥bin* も必要です。

Micro Focus COBOL コンパイラでサンプル・プログラムをコンパイルするとき、32 ビット・ビルドの場合は 32、64 ビット・ビルドの場合は 64 に COBMODE 環境変数を設定します。

9. テクニカル・サポート

Sybase ソフトウェアがインストールされているサイトには、Sybase 製品の保守契約を結んでいるサポート・センタとの連絡担当の方 (コンタクト・パーソン) を決めてあります。マニュアルだけでは解決できない問題があった場合には、担当の方を通して Sybase 製品のサポート・センタまでご連絡ください。

10. その他の情報

Sybase Getting Started CD、SyBooks™ CD、Sybase Product Manuals Web サイトを利用すると、製品について詳しく知ることができます。

- Getting Started CD には、PDF 形式のリリース・ノートとインストール・ガイド、SyBooks CD に含まれていないその他のマニュアルや更新情報が収録されています。この CD は製品のソフトウェアに同梱されています。Getting Started CD に収録されているマニュアルを参照または印刷するには、Adobe Acrobat Reader が必要です (CD 内のリンクを使用して Adobe の Web サイトから無料でダウンロードできます)。
- SyBooks CD には製品マニュアルが収録されています。この CD は製品のソフトウェアに同梱されています。Eclipse ベースの SyBooks ブラウザを使用すれば、使いやすい HTML 形式のマニュアルにアクセスできます。

一部のマニュアルは PDF 形式で提供されています。これらのマニュアルは SyBooks CD の PDF ディレクトリに収録されています。PDF ファイルを開いたり印刷したりするには、Adobe Acrobat Reader が必要です。

SyBooks をインストールして起動するまでの手順については、Getting Started CD の『SyBooks インストール・ガイド』、または SyBooks CD の『README.txt』ファイルを参照してください。

- Sybase Product Manuals Web サイトは、SyBooks CD のオンライン版であり、標準の Web ブラウザを使用してアクセスできます。また、製品マニュアルのほか、EBFs/Updates、Technical Documents、Case Management、Solved Cases、ニュース・グループ、Sybase Developer Network へのリンクもあります。

  Sybase Product Manuals Web サイトにアクセスするには、Product Manuals (http://www.sybase.com/support/manuals/) にアクセスしてください。

10.1 Web 上の Sybase 製品の動作確認情報

Sybase Web サイトの技術的な資料は頻繁に更新されます。

❖ 製品認定の最新情報にアクセスする

1. Web ブラウザで Technical Documents を指定します。(http://www.sybase.com/support/techdocs/)
2. [Certification Report] をクリックします。
3. [Certification Report] フィルタを選択し、製品、プラットフォームおよび時間枠を指定して [Go] をクリックします。
4. [Certification Report] のタイトルをクリックして、レポートを表示します。

❖ コンポーネント認定の最新情報にアクセスする

1. Web ブラウザで Availability and Certification Reports を指定します。(http://certification.sybase.com/)
2. [Search by Base Product] で製品ファミリと製品を選択するか、[Search by Platform] でプラットフォームと製品を選択します。
3. [Search] を選択すると、選択した製品の可用性と Certification Report が表示されます。

❖ Sybase Web サイト (サポート・ページを含む) の自分専用のビューを作成する

MySybase プロファイルを設定します。MySybase は無料サービスです。このサービスを使用すると、Sybase Web ページの表示方法を自分専用にカスタマイズできます。

1. Web ブラウザで Technical Documents を指定します。(http://www.sybase.com/support/techdocs/)

2 [MySybase] をクリックし、MySybase プロファイルを作成します。

10.2 Sybase EBF とソフトウェア・メンテナンス

❖ EBF とソフトウェア・メンテナンスの最新情報にアクセスする

1 Web ブラウザで Sybase Support ページ (http://www.sybase.com/support) を指定します。

2 [EBFs/Maintenance] を選択します。MySybase のユーザ名とパスワードを入力します。

3 製品を選択します。

4 時間枠を指定して [Go] をクリックします。EBF/Maintenance リリースの一覧が表示されます。

鍵のアイコンは、「Technical Support Contact」として登録されていないため、一部の EBF/Maintenance リリースをダウンロードする権限がないことを示しています。未登録ではあるが、Sybase 担当者またはサポート・コンタクトから有効な情報を得ている場合は、[Edit Roles] をクリックして、「Technical Support Contact」役割を MySybase プロファイルに追加します。

5 EBF/Maintenance レポートを表示するには [Info] アイコンをクリックします。ソフトウェアをダウンロードするには製品の説明をクリックします。